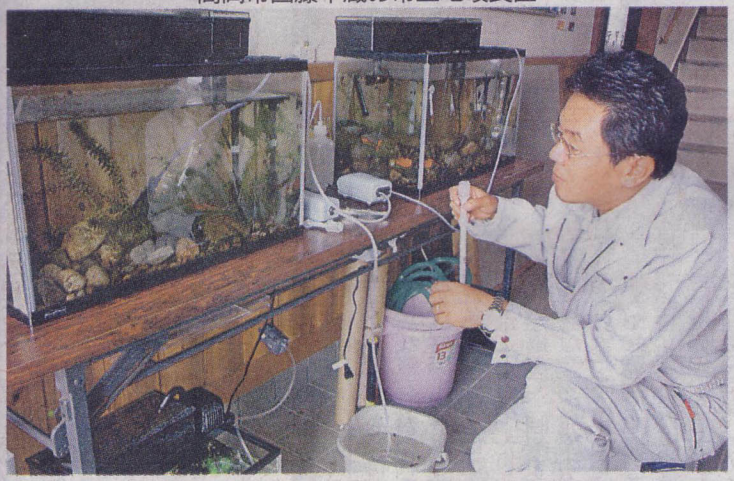
ホタル乱舞 復活を

高岡市土地改良区

高岡市内を流れる用水にゲンジボタルが乱舞する光景を復活させるため、同市西藤平蔵の市土地改良区職員たちがホタルの養殖に取り組んでいる。ホタルが生息しやすい環境整備は県内で広がりつつあるが、土地改良区が飼育から放流まで取り組むのは珍しい。来年三月に幼虫を放流する予定で、順調に成長すれば来年夏にはホタルの飛び交う姿が見られそうだ。



ホタルの幼虫の世話をする北川さん
＝高岡市西藤平蔵の市土地改良区

養殖に取り組む

ホタル再生の計画が進められているのは、二上山のふもとから国吉地区を流れる下八ケ佐加野用水（総延長約十四キロ）の五十里地区。県のかんがい排水事業で平成十五年に三方コンクリート化された。「改修後もホタルを見たい」という住民の声に応え、内側に土を入れたブロックを整備したが、ホタルの姿は見られなくなった。

住民の思いをくみ、市土地改良区の北川孝工事係長（三八）が今年六月、下八ケ佐加野用水地区委員会のメンバーと一緒に小矢部川水系の川で成虫を採集し、独学で飼育に挑戦した。

事務所内に水槽を三個用意し、七月上旬にはふ化に成功。現在、職員たちは仕事後、約八百匹の幼虫に餌のカワニナをやるのを日課にしている。

同市中田中科学部員と一緒に長年ホタルの保護に取り組み、北川さんに飼育法をアドバイスする水上哲夫さん（七四）＝同市本保＝は「自然の川の状態に近づくまで時間がかかるだろうが、数年後には数多く舞う姿が見られるのではないか」と言う。細野藤樹地区委員長（七〇）も「来年夏に一匹でも飛ぶ姿が見られれば」と期待する。

ホタルは環境指標の一つとされ、各地で生息しやすい環境整備が進んでいる。土地改良区が養殖方法を確立すれば、ほかの地域での保護にも活用でき、モデルケースとして期待される。北川さんは「成功すれば、ほかの地域の人とも取り組みたい」と話している。

高岡市五十里の下八ケ佐加野用水。指さすのは指導に当たる水上さん